

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。
法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2022年 3月 4日にパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

区分 I : 該当なし

区分 II : 該当なし

区分 III : 該当なし

その他: 3 件

NO.	号機等	不適合件名	グレード	発見日
1	1号機	換気空調系非常用ディーゼル発電設備(B)室排風機(A)を運転した際、過負荷により自動停止したことが認められたため、原因調査・対策検討。 なお、過負荷による当該排風機用電動機や電源設備に発煙や焦げ痕などは確認されていない。	GⅢ	3月2日
2	3号機	中央制御室計測用変圧器(B)点検に伴う電源切替のためエリア放射線モニターを再起動したときに、6箇所のエリア放射線モニターが動作不良となったことが認められたため、当該エリア放射線モニターを点検・修理。 なお、動作不良となったエリア放射線モニターは制御基板の半導体素子(EEPROM)の交換とリセット操作により当日のうちに正常に動作したことを確認。 (動作不良となったエリア放射線モニター) ・ch.19 TIP駆動装置室 ・ch.22 R/B2階北側区域 ・ch.27 RHRポンプB区域 ・ch.38 T/B地下2階北側区域 ・ch.40 CH/B地下1階通路 ・ch.41 CH/B地下2階通路	GⅢ	3月1日
3	3号機	換気空調系タービン建屋排気エアフィルター(C)差圧指示計(U41-DPI155C)において、指示値のダウンスケール(指示値の目盛板下限値未満)が認められたため、当該指示計を点検・修理。 なお、タービン建屋排風機(C)は待機中のため、タービン建屋の換気に影響はない。	GⅢ	3月3日